

神奈川歯科大学 同窓会会報



136号 2022年7月



Kanagawa Dental University Alumni Association

<https://inaoka82.com/>



巻頭言	会長 大館 満	2
情景から図形そしてあるべき姿・形へ	鹿島 勇	4
本学の入試の現状	菅谷 彰	7
学会学術大会報告 第32回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大会	木本一成	8
日本法歯科医学会第16回学術大会	山田良広	12
学術講演会報告 50周年記念学術講演会	宇土武典	13
第96回代議員会報告		14
令和2年度一般会計歳入・歳出決算 収支計算書		17
令和4年度一般会計歳入・歳出予算		18
会務報告（令和4年1月から6月まで）		19
令和3年度第1回表彰選考委員会報告		20
支部紹介（神奈川県支部）	金子守男	21
卒業生のページ 歯科口腔病院のビジネスモデルと戦略	伊東隆三	23
支部長時代をふり返って	鴨井康子	25
支部長の任期を終えて	浅井謙次	26
お知らせ		27

- 表紙題字：大館 満 会長
- 表紙写真：キャンパス現況（令和4年5月撮影）

巻頭言

2022/7



神 奈 川 歯 科 大 学 同 窓 会
会 長 大 舘 満

ご 挨拶

本年4月から同窓会も新年度を迎えましたが、一昨年からの新型コロナウイルスの蔓延により現役員による執行が継続されることとなりました。いろいろ制約が多い中での活動で、会員の皆様には十分な対応ができず、ご迷惑をおかけしております。コロナ禍での会務運営への対応について意見交換をしておりますが、企業のように収益を目的として活動をしているわけではないので、危険回避に十分な余裕をもって対応しなければなりません。コロナ禍の継続の可能性、将来の同様な事態への対応等、理事会で十分協議し会則改正も含め検討していきたいと思っています。

新型コロナウイルスの蔓延により制限される生活が2年以上継続され、3年目に入っています。ワクチンの接種が進めば終息に進むと思っていました。しかし、重症化防止には効果がありました。感染者の減少は見られず一喜一憂する日々です。

一昨年5月に同窓会でスタートした「新型コロナウイルス感染予防、重症化防止プロジェクト」にご協力をいただきありがとうございます。昨年も触れさせていただきましたが、一昨年5月以降から2年間のプロジェクトの進捗状況を少し紹介します。

- スタートは令和2年3月、日本歯科医師会幹部と日本歯科医学会幹部の厚生労働省訪問です。「口腔ケアで新型コロナウイルスの感染を

軽減できる」旨、エビデンスを持参して訪問しましたが医師の専権事項なので任せてほしいとのことで不調に終わる。そのため歯科医師会や大学を巻き込まず仲間の集まりである同窓会で進める決断をしました。その後、日本歯科医師連盟の協力をいただきました

- 令和2年5月下旬、新設12校の同窓会にも情報を提供し各同窓会での推進をお願いした
- 鶴見大学歯学部同窓会会長竹内千恵先生からのお話では、元国立感染症研究所研究員であった鶴見大学歯学部花田信弘教授に働きかけしていただきました。結果、口腔ケアに関連して何度かテレビにご出演していただきました
- 令和2年12月15日以降、大江戸線職員でクラスター発生。原因が職場での歯ブラシが原因と東京新聞が報道。日本口腔衛生学会が詳細な説明を求めたところ、歯ブラシによる根拠はないと二日後訂正記事を発表。しかし訂正報道を無視し、感染症専門医による歯ブラシによる飛沫イメージをスパコン富岳で解析し、映像をテレビなどの報道で公表。その結果、令和3年2月末に文部科学省は全国の公立小中高の校内での歯ブラシ禁止、あるいは自粛を通達。結果として令和3年3月から学童の感染拡大が広がった。保護者の不安が広がり我々も近隣市町村、県を通じ公立小中高での歯ブラシの禁止あるいは自粛に関して抗議するも認められず(管轄は違うが幼稚園、保育園でも同様の通達)
- 令和3年1月下旬に大阪府の吉村洋文府知事が「大阪府の歯科医院で環境が悪いのに、クラ

スター感染が起きていないのは不思議だ」とSNS等で発信しマスコミで話題になりました。

この発言に山田 宏参議院議員が「普段から歯科医院は肝炎ウイルス、エイズウイルス等との戦いから、経験と設備が整っている」との意見を述べられました。この点は間違いなく理由の一つだと思われます。しかし、毎日、数十人の患者さんを20から30cmの至近距離で治療している我々の感染が少ない理由の説明には不十分である。そこで口腔ケアが関係していると伝えるため同窓会で行っているプロジェクトを紹介し、資料と考察を吉村洋文府知事に山田 宏参議院議員を通して伝えていただきました

- 山田 宏参議院議員のお力で令和3年3月19日の参議院予算委員会で、新型コロナウイルス感染症に対して口腔ケアの有効性について答弁をいただき菅 義偉首相、西村康稔大臣にご理解を賜りました(アーカイブで閲覧可能)
- 並行して日本歯科医師連盟のご支援で連盟、全会員に口腔ケアの有効性を表現した院内掲示用ポスターの配布に至りました
- 令和3年11月、ミヤネ屋で大阪大学歯学部天野敦雄教授により、歯周病ケアに合わせて口腔ケアがコロナウイルス感染の低減に効果がある旨述べていただきました

以上、大きな事項に関して記載させていただきました。

一昨年5月に同窓会プロジェクトとしてスタートしてから2年、政府はワクチンへの集約のため確実性のない情報は公表できないとのこと、厚生労働省医務技監は「感染症対応は医師の専権事項」との見解を崩しません。困難ではありますが、これからも「新型コロナウイルス

感染予防、重症化防止プロジェクト」へのご協力よろしくお願いいたします。

さて、学校法人神奈川歯科大学においては一昨年、昨年度と歯科界への魅力低下?に加え少子化の影響もあり受験生の減少に苦慮しております。一昨年からの卒業生「子女枠」を改め、卒業生の推薦で子女でない受験生も認める「卒業生推薦枠」となりました。ただ、昨年度の卒業生推薦枠は十分に機能したとは言えません。同窓会としても一層の協力体制を進めたいと考えております。先日、神奈川県同窓会の理事会でも母校の魅力や逆に受験を敬遠する理由はあるのか?など意見交換をしていただきました。全国同窓会においても情報を集め意見交換を進めていきたいと思っています。本年度も会員の皆様に多数の受験生を推薦いただきますようお願い申し上げます。

本部同窓会創立50周年式典は新型コロナウイルスの蔓延が収まらず、理事会で協議し一旦、中止させていただきました。改めて数年後に55周年に合わせて記念式典、祝賀会(名称は50周年、あるいは55周年)を開催する方向で進めることをご了承いただいておりますが、今年度から新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ再度、開催に向けて協議を進めたいと考えております。

同窓会の日常業務は事務局の協力を得て進めております。現状ではZoomによる常務連絡会、理事会を開催しております。また、監事会に関してはその性質上、毎回、人数を限定してリアル会議で実施しております。

これからも会員の皆様には同窓会活動に対し、今後ともご高配とご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



神奈川歯科大学 理事長

鹿島 勇 (6回生)

はじめに

本学が、経営の危機的状況に陥ってから13年の月日が流れました。当時の学内新聞新年号の標題は、再建の激しさと厳しさを漂わせる「改革元年」でした。今年は、夢と希望を感じさせ、未来を瞥見できる「時流に乗って次のその先へ」と題しました。それは、財政再建の復旧から未来化構想具現化の復興まで、長き茨の旅路であったことを物語ります。

その一方で、世界中に蔓延したコロナ、ロシアのウクライナ侵攻、各地で発生する異常気象による洪水、火山爆発、地震そして内戦や国際紛争による食料危機等、私達は突然に歴史の転換点に立つことになりました。戦争、疫病、地震そして飢餓の4つのキーワードは、聖書の最終章にある黙示録の4騎士を彷彿とさせます。しかし私達は、111年の歴史を有する医療系の大学として、環境や社会そして世界がいかなる変化を遂げようとも生き延びていかなければなりません。

新たな危機的時代を乗り越えて行くためには、自力で生きる術と能力を身に付けることが必要です。私達は常に攻めの姿勢を保ち、本学の未来化構想に基づく成長戦略をこれまで同様に推し進めていきます。

逆算の思考

本学の未来化構想策定は、10年後の「あるべき姿／ありたい形」を定義し、その実現手段を考えることから始まります。そして、目標達成のゴールから現在までを逆算し、「いま何をすべきか」を考えます。過去の実績や現状から未来を考えるのではなく、未来から今を考えるバックキャスト思考を基本とします。

「あるべき姿／ありたい形」は、まず直観と想像そして感性から一つの情景として思い浮かべます。その輪郭が明瞭になった時、時代の流れや価値観と意義そしてタイミング等を考えながら情景を分解します。分解された各情景に優先順位を付け、各々事業計画案として視覚化します。情景が図形化された時、初めて問題点や障害そして乗り越えなければならない壁が見えてきます。次に、それらへの対応や解決策の編み出し

と処理を繰り返し、断片化された情景を設計図ごとに具現化していきます。

このように10年かけて各々の情景を形として完成させます。つまり、10年毎の事業計画実現の積み重ねとその繋ぎ合わせによって、本学のありたい姿・形が組み立てられていきます。2010年の改革元年から始まった本学の未来化10年構想はすでに完了しました。2020年から始まっているbeyond the next (次のその先へ)さらなるbeyond the limits (限界を超えてその先へ)に見える未来とはどのような景色なのでしょう。

認知症とサイバーサテライト構想

2019年、東京北区にある東京歯科衛生専門学校を事業継承することによって、横須賀、横浜、東京が一本の線で繋がりました。この3点を結ぶ線上に、学校法人神奈川歯科大学サイバーサテライト・コンソーシアム構想と題し、医科・歯科連携の新しいコンセプトの医療機関の創発を目指してきました。

口腔疾患は、心疾患、脳疾患、骨粗鬆症、糖尿病、悪性腫瘍、誤嚥性肺炎や認知症等の全身疾患と深く関係することはすでに知られています。私達は、その中の認知症という病態に着目しました。超高齢化社会に突入した日本は、2025年には認知症患者数が700万人に達することが予測されており、それは高齢者(65歳以上)の約5分の1に当たります。このような現状においても、未だ認知症の根本的な予防や治療方法は確立されていません。

一方で、認知症と口腔疾患との関係が次第に明らかにされつつあります。咀嚼機能低下(オーラルフレイル)は、海馬(視覚・聴覚・味覚・体性感覚や運動感覚の入力情報を記憶と結びつけて保存する脳の位置)の老化促進や脳血流の減少そして栄養障害や噛めないことによるストレス物質濃度の増加等を引き起こします。また、歯周病と糖尿病との関係が認知症に強く関与することも解ってきました。歯周病菌は、アルツハイマーの原因となる特殊蛋白(アミロイドβ)の蓄積を増加させます。糖尿病は、そのアミロイドβの分解

酵素であるインスリン分解酵素の機能を低下させます。さらに咬合力低下による舌・唇の運動機能低下は、会話を困難にして社会参加を妨げ、認知症の誘因となります。

認知症の社会的背景

本学の永続性を担保する経営状況を示す指標として、収入と支出のバランスを表す「経常収支差額」があります。一方、国も同じように一般会計歳出と一般会計税収とのバランスを示す指標があり、ワニの口と言われています。国の税収と歳出の乖離が、大きく開いた鱗の口に似ていることから、日本の財政状況を比喩した表現です。その開き（赤字）を補填するために発行された国債は、今や1000兆円を超える国の借金となっています。その張本人が、社会保障制度の中の年金と医療そして介護なのです。ワニの口は2年前のコロナウイルスによってさらに大きく開き、2020年度だけで100兆円を超えました。2021年度から少し落ち着いてきたものの、開いた口が塞がる気配はありません。

私達は、さらに社会保障制度を圧迫してくる次なる病態が認知症と予測しています。人生100年時代を考えた時、それは50年間取り組まねばならない国の課題となり、いずれ日本の社会的問題となってくるでしょう。その根拠は、人口の最も多い団塊世代（73～75歳）に続いて団塊ジュニア世代（47～51歳）が待ち受けているからです。

情景の具現化

本学は、前述した認知症とその社会的背景や現状から、認知症の診断・治療・予防と口腔医療を組み合わせた新しいコンセプトの医療機関として、「脳機能・口腔疾患医療センター構想」の創発に挑戦します。それは、西洋と東洋医学を融合した医科に口腔治療の歯科を連携させた認知症専門医療機関として立ち上げます。私達はそのトップランナーとしてスタートし、いずれインバウンドやアウトバウンドへと発展させていくこととなります。

2020年、その目的達成のため、コロナウイルスによる緊急事態宣言の真最中に、羽田空港の国際線第3ターミナルにサテライトクリニックを開院しました。続いて2021年、コロナの蔓延防止宣言にもかかわらず、国内線の第1ターミナルにサテライトを開院しました。これで日本の空の玄関口を制したことになります。

2022年は、分解した各々の情景を組み合わせ、作品完成への最終段階に入ります。場所は、リニアの発

着駅であり東京の未来の玄関口となる品川高輪、日本のシャンゼリゼと称される銀座そして花のお江戸の日本橋、この3か所のいずれかに的を絞っています。その先駆けとして今年の4月、大学院講座として統合医療学講座を品川の泉岳寺駅前に開講しました。

具現化の最終章

「50年間持続可能な脳機能・口腔疾患医療コンソーシアム構想」と題し、御三家といわれる老舗百貨店様にプレゼンテーションする機会を得ました。ショッピングセンターやデパートでの歯科医院の開設は一般的ですが、学校法人がデパートと医療コンソーシアム構想で結びつくケースはおそらく初めてでしょう。

この構想が具現化した時、百貨店側として、

- ①コモディティ化するデパート市場間価格競争からの脱却
 - ②顧客から個客そして「モノ」から「コト」への発想の転換
 - ③外商とシニア層の顧客およびその関係者との購買上のトラブル回避
 - ④デパートと医療系学校法人とのコンソーシアム構想によるブランド力の昇華と信頼性に基づく付加価値の付与
 - ⑤そのブランドに付随するコピー不可能なストーリーと世界観の構築
 - ⑥シニア層のお得意様への認知機能低下に対する予防的医療サービスの提供
 - ⑦その方々に対する咀嚼機能低下改善と幹細胞再生口腔医療を組み合わせた完璧な口腔管理
 - ⑧インバウンドを通じた海外からのハイエンド顧客の確保
 - ⑨医療分野とのコラボによる新しい形のデパート像の創発
- 等の相乗効果が期待できます。

一方、本学にとっては、

- ①認知症と口腔疾患を組み合わせたOnly oneとなる新しいコンセプトの医科歯科連携医療機関の創発
- ②医学・歯学系大学の無い東京都中央区での本学の存在感と付加価値の向上そして差別化
- ③時期を見てこのコンセプトをパッケージ化してアセアン進出を目指す新たなビジネスモデル
- ④独創的な医療サービスによる日本の社会保障制度の中の医療保険への貢献
- ⑤幹細胞再生を導入した初の口腔医療機関の設立等の波及効果を期待することができます。

このコンソーシアム構想成功の3つの要因は、

リーダーシップと緻密な戦略そして詳細なマーケティングにあります。リーダーシップの要は人材であり、戦略の基盤は相方の信頼に基づく協力関係そしてマーケティングの軸は徹底した経営分析に他な

りません。同窓生の皆様がこの記事を読む頃には、具体的な方向性が決定されていることでしょう。以下に、目指す本学の未来地図を示します。



おわりに

大学では、2020年にパンデミックと化したコロナウイルスにより、対面式からオンラインそして現在のハイブリッド型と、かつて経験したことのない授業形態が続きます。この状況がいつ終わるのか、今のところ明確に予測することはできません。このように今後の予測が難しい状況をブーカ（VUCA）と言います。

VUCAとは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）そしてAmbiguity（曖昧性）の頭文字を並べたものです。物事の価値観や社会のしくみが目まぐるしく変化することによって、

これまでの経験や実績が全く通用しない時代を形容する言葉として使用されるようになりました。このVUCAに加えて、18歳人口減少、受験生や学資負担者の志望大学決定基準の変化そして歯科医師に対する職種としての不人気等、様々な要因が学校法人経営に更なる追い打ちをかけます。私達は、客観的で正確な情報を見定め、スピード感を持った決断力と実行力でVUCAの時代を乗り越えていかねばなりません。

同窓会の皆様方の更なる御支援と御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

ISA

Immediate Surgical Anchor / イミディエートサージカル・アンカー

Sphere / Advance

- Ti-フック併用のインダイレクトアンカレッジで簡単アップライト
- PLAS併用で様々なコントロールを実現可能

標準価格 ¥10,000/pk (2本)
高度 承認番号 22500BZX0014000

Made
in
JAPAN

PLAS X (バラタル・レバー・アーム・システム PLAS X)

大白歯と前歯部のダブルコントロールが可能。

- 歯列全体の移動による正中編位の改善
- 前歯は圧下方向、白歯は遠心方向への同時移動
- 白歯と前歯の遠心への同時牽引による治療期間の短縮
- 抜歯症例において白歯の遠心移動とスペースクローズを同時に行うなど応用範囲が広がります。

Φ0.9 No.35-212

Φ1.2 No.35-213

標準価格 ¥12,500/pk (5本)

管理 認証番号 225AGBZX00034000

製造販売
株式会社 バイオデント ☎ 0120-49-0980

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 2-33-19 Y D M 日暮里ビル ※携帯・PHSからもご利用になれます。
TEL 03-5604-0980 FAX 03-3801-7560 E-mail info@biodent.co.jp http://www.biodent.co.jp

※表示価格に消費税は含まれておりません。すべての表示価格は、歯科医院様直接販売時の価格となります。※製品の仕様・価格等は予告なく変更する場合があります。※ご購入金額 5,000 円 (税抜) 未満の場合、別途送料を頂戴しております。

本学の入試の現状

神奈川歯科大学副学長・教学部学生担当部長・総合歯学教育学講座 歯学教育学分野 教授

菅谷 彰 (14 回生)



私は今から39年前、昭和58年3月に卒業しました14回生です。同級生は当時210名を超えていたと記憶しています。卒業時は現在のような臨床研修の制度は無く、卒後直ちに医局員（助手）となり、教育、研究、臨床に従事しました。現在の歯周病学講座、当時は保存学教室の中に保存修復学講座、歯周病学講座、歯内療法学講座の3講座があり、そのうちの1つでした。講師、准教授を経て、今から10年前の2012年、総合教育部（歯学教育学講座）が発足し、同講座の教授に就任いたしました。教育に特化した総合教育部は、低迷し始めた歯学部の入学者を教育内容から見直し、本学の魅力につなげたいとの考えから始まった教育改革の推進部署でした。2010年度から歯学部の受験が低迷し、全国で1万人を超えていた歯学部の受験者数が6,000名台まで、私立歯学部では4,000名台まで低迷していました。本学もその影響を受け、2010年から2013年にかけての4年間は、受験者数も200名を割り、倍率も1.1倍を下回り、入学者も100名を割っていました。特に2013年度は入学者58名と大きく定員を下回る結果になりました。全体としての歯学部希望者が減っている中、本学は他の歯学部と競合し、入学者を獲得する必要がありました。そのために新たな教育プログラムを提供し、本学の魅力につなげ、教育課程の見直しを図るために「単位の充実」を主軸として、当初はユニークな短期集中型学習プログラムとしての5学期制度、現在ではほぼ標準化されていますが、すべての講義を録画しオンデマンド受講を可能にするなど、受験生への魅力の発信に努めました。その後、歯学部志願者の回復傾向に伴い、本学の受験者数も改善され、2015年度は受験倍率も3倍を超え、入学者数も100名割ることなく推移するようになりました。しかしながら、2019年度入試から再度、歯学部の受験者数が減少し始め、2020年度、2021年度の入試では2年間で、私立歯学部において2,500名を超える受験

者数の減少がありました。特に2022年度の私立歯学部の入学者数は総募集定員数1,834名のうち、296名（16%）を下回る1,565名、84%の入学率となりました。私立歯学部17校のうち、11校が定員割れを起こした状況で、大学によっては募集定員の半数に満たなかった大学も見られました。本学もその影響を受け、昨年度（2022年度入学者）では22名の定員割れが生じました。

現在歯科医師の平均年齢は53歳を超えていると聞いています。構成する年齢層も、50代をピークに40代60代が多勢を占め、高齢化の様相を呈しています。熟練した歯科医師が充実していると考えられる反面、近い将来において、活躍できる歯科医師が充足できるのかが不安です。日本の人口の減少率に比べ、歯科医師数の減少、歯科医師の高齢化は今後さらに進むことが懸念されます。

私自身、2015年度から現在まで入試委員長として新入生の入学に携わりましたが、ここ数年の歯学部志願者の減少に関する詳細な原因は分かりません。しかしながら、歯学部の魅力、本学の魅力をこれからも発信し、優秀な入学生確保に努めていきたいと考えております。今回、同窓会会報への掲載の機会を頂き、同窓の先生方にも是非ともこの本学の入試の現状にご理解とご協力を賜り、受験生確保に繋げられればと考えております。2023年度の入試からは、先生方卒業生のご推薦（卒業生推薦枠）をいただいた入学者には、入学金（60万円）を全額免除する新たな特典が作られました。また以前のような卒業生子女枠での入試区分も一昨年度より変更し、卒業生との血縁関係がない受験生でも、先生方のご推薦があれば卒業生推薦枠として受験していただける区分になっております。ご子息、ご息女でなくても、歯科医師としての造詣と本学の教育や環境に理解がある先生方のご推薦を頂ければ幸いです。

一般社団法人日本スポーツ歯科医学会第32回総会・学術大会 (併催 第24回日本歯科医学会学術大会) を同時開催 —スポーツ歯科医学との出会い—

一般社団法人日本スポーツ歯科医学会第32回総会・学術大会大会長
神奈川歯科大学歯学部社会歯科学系健康科学講座口腔保健学分野

木本 一成 (13回生)

(一社)日本スポーツ歯科医学会(JASD)第32回総会・学術大会(横浜大会)は、2021年9月21日(火)・22日(水)に、単独プログラムを神奈川県歯科保健総合センター(メイン会場)・横浜市健康福祉総合センター(パブリックビューイング・サブ会場)にてハイブリッド形式(オンサイトおよびライブ配信・オンデマンド配信)で、また同月23日(木)～25日(土)に併催プログラムを第24回日本歯科医学会(JADS)学術大会内にてライブ配信・オンデマンド配信で開催しました。本学会JASDとしては、初めての5日間にわたる長いプログラム会期期間(10月末日までのJADSオンデマンド配信を含め41日間)になりました。

ここに、絶大なるご理解・ご支援と、多くのご参加を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。また副大会長をお引受けいただき多大なるご支援を賜りました(公社)神奈川県歯科医師会の松井克之会長と日本スポーツ・健康づくり歯学協議会の杉山義祥会長はじめ、JADS・(公社)日本歯科医師会・(公社)神奈川県歯科医師会の会員の皆様方に深く感謝申し上げます。JASD横浜大会単独プログラムにご後援いただきました関係諸団体、ご来臨ならびに過分なるご高配賜りました神奈川歯科大学同窓会の大館 満会長(本学7回生)・金子守男神奈川県支部長(本学18回生)、日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト協議会およびご協賛いただきました多くの関連企業等、そのご高誼に厚く御礼申し上げます。さらには、本大会開催当時に「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言期間延長および区域変更」下にあった横浜市開催にもかかわらず、ご対応をお執りいただきましたすべての講師・オンサイト参加者・大会運営スタッフの皆様方に衷心より深謝申し上げます。

先ず、当方の「スポーツ医学」との最初の関わりをご説明させていただきます。1997年に同窓の杉山義祥先生(本学10回生)に西山逸成防衛大学校教授をご紹介いただき、西山教授が関係する(公財)日本ハンドボール協会(JHA)強化指定選手のアンチ・ドー

ピング活動ならびに口腔保健管理等に関与することから始まりました。その翌年、本学口腔衛生学教室に在籍しながら同学校法人湘南短期大学歯科衛生学科兼務を命じられ、それまでの就学前児童や学童などのフィールド活動・調査等に加えて、スポーツ選手ら若年者・成人等の口腔保健管理に携わり、視野が広がって「スポーツ歯科医学」の調査・研究まで対象範囲が波及しました。同年より(公財)日本オリンピック委員会(JOC)強化スタッフトレーニングドクター(のちに医・科学スタッフ)やJHAスポーツドクターを拝命したことから、当時の日本スポーツ歯学研究(現JASD:日本歯科医学会専門分科会)に入会して現在に至ります。とくに西山・杉山両先生の後ろ盾もあり、1999年設立の世界アンチ・ドーピング機構(WADA)に呼応した「日本アンチ・ドーピング機構(JADA:現(公財))」の2001年設立よりも前に、アンチ・ドーピング活動に関与することができました。その後は同窓の奥寺 元先生(本学2回生)のご推挙でJADA加盟団体の(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟(JBBF)や、坂本静男早稲田大学教授らのご推挙で同加盟団体の(一社)日本自動車連盟(JAF)、また杉山義祥先生のご推挙で(公財)神奈川県スポーツ協会などでのスポーツ医科学委員やアンチ・ドーピング委員として関与して参りました。一方、「スポーツ歯科医学」における教育普及・啓発のために、(一社)かながわスポーツ・健康づくり歯学協議会(SHP Dent.かながわ)に参画し、(公財)日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト資格取得などを経た後に、現在JASD教育普及担当理事に従事しております。

さらには、今までのJHAにおける活動をお認めいただき、東京2020大会に参加するハンドボール競技選手のための歯科医師「Collaborator/Athlete Dentist」を拝命し、救護・救急搬送対応のメディカルスタッフとしてハンドボール競技試合会場(国立代々木競技場)での臨場歯科医師6名の推薦を委ねられました。JASD学会関係者や本学同窓生を推薦し、

同窓では北村 豊先生(本学6回生)・片山公則先生(本学9回生)とともに担当しました。このJASD横浜大会でも「スポーツ医学」・「スポーツ歯科医学」の教育普及のために、東京2020大会における歯科医師の役割を伝えることができたものと自負しております。

さて、前半のJASD横浜大会単独プログラムでは「*Proactive Safety and Enjoy the Excitement of Sports !!* (積極的な安全対策でスポーツの感動・興奮を楽しみましょう!!)」をテーマに、招待講演6講演・認定委員会セミナー2講演、ポスター演題17題(第32回大会長特別賞等選考対象)の発表がありました(単独プログラム参加登録者総数422名)。また後半のJASD併催プログラムでは3講演と公開フォーラム、2シンポジウムへの企画支援、ならびにe-ポスター演題37題の発表(JASD学会賞等選考対象)を企画・編纂しました¹⁾。

そこで、前半の単独プログラムでの講演・シンポジウム内容におけるトピックスを、誌面の関係もありますので各ご講演につき一つ挙げてみます。教育講演(浅川 伸先生)では全面改定された2021年世界規程(WADA CODE 2021)²⁾に準拠し、東京2020大会におけるドーピング検査が7,700件(オリンピック6,200件、パラリンピック1,500件)に及んだことや、歯科医療従事者のサポートスタッフとしての役割・責務下における教育活動の推進を解説していただきました。特別講演(猪股康博先生)ではスポーツ・インテグリティの観点とわが国のスポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律の遵守から、ドーピング検査では特定が困難なアスリートおよびサポートスタッフのアンチ・ドーピング規則違反に関するドーピング調査・ドーピング通報窓口を紹介していただきました³⁾。特別記念講演(猪谷千春先生)では東京2020大会開催前でのメディア報道に関する課題や、オリンピズムの根本的な倫理規範、今後のオリンピック・パラリンピック競技大会の在り方を師説いただきました⁴⁾。基調講演(小野 力先生)ではわが国のスポーツ歯科医学の歴史的背景を鑑み、重要性の理解を深めるために未だに改善の余地があることを指摘され、今後も尚一層各競技団体との関係構築を整備して国民に広く普及を図るべきと提言いただきました。企画講演①(山本祥子先生)では開発したGly-X-Y配列トリペプチドを高濃度に配合するコラーゲン・トリペプチド(腱修復、皮膚光老化予防、歯肉炎改善等に寄与)を原料にした環状トリペプチドが身体運動機能と学習機能の維持回復の向上について解説、企画講演②(遠山健太先生)では幼少期の運動指導をトレーナーの視点から指摘し、ゴールデンエイジ理論を解説いただきました。さらに、JASD認定委員会セミナー(SDH:月村直樹

委員、DT:武田友孝委員長)では、両セミナーともに非常に興味深いトレンド内容とフィールドの実践で有用な講演でありました。他に認定医ケースプレゼンテーション(オンサイト)、認定SDH筆記試験(オンサイト&オンライン)にて、本学会認定資格審査を執り行いました。この単独プログラム内ではオンサイトにて日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト協議会総会も開催され、太田謙司会長(前大阪府歯科医師会会長)の座長で進行、柳川忠廣日本歯科医師会副会長・安井利一JASD理事長(明海大学学長)らのご挨拶の後に、太田先生が会長職をご勇退され、杉山義祥先生が新会長に選出されたことを追記しておきます。一つ心残りであったことは(時節柄、致し方のないことでしたが)、学会懇親会開催中止の件でありました。当初宣言下の「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言期間」後の日程開催であることから、アトラクションとしてラテンビッグバンド演奏を(一社)横須賀ジャズ協会に依頼し、参加者に楽しんでいただく企画を立案しておりましたので、誠に残念でした。

一方、その後の第24回JASD学術大会との併催プログラムでは、日歯企画シンポジウム1(近藤尚知先生・安井利一先生・柳川忠廣先生)によって、東京2020大会等の事例⁵⁾を交え、今後のスポーツデンティストの役割⁶⁾について討議されました(ライブ配信・オンデマンド配信閲覧総数延べ1,273回)。シンポジウム17(JASD認定研修会受講対象講座:安井利一先生・柳川忠廣先生・壁谷知茂氏・武田友孝先生)によってマウスガードの今後の普及について討議されました⁶⁾。これら本学会JASDが選択したセッションにおけるオンデマンド配信閲覧総数は延べ19,473回でありました。またe-ポスター(JASDセッション:JASD学会賞等選考対象)では配信閲覧総数が延べ2,956回に達しており、これら2.2万回を超える閲覧数のご支援に感謝申し上げます。なお、講演抄録(全演者のご所属・お役職・お略歴等)、発表演題等事後抄録はスポーツ歯学25巻2号をご覧いただき、今後のスポーツ歯科医学の研究・フィールド活動等にご活用いただければ幸甚です^{6,7,8)}。

最後に、コロナ禍の厳しい状況下において、同年の東京2020大会開催と同様に、本学会JASDの単独・併催プログラムが成功裏に終えることができましたのも、ひとえにご支援くださいました関係各位の御かげと存じております。再度、心より御礼申し上げますとともに、今後もスポーツ歯科医学の発展と啓発普及に更なるご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます^{9,10)}。



ADC ASIAN CUP (西早稲田) 森 喜朗 名誉大会長とともに (当時：東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 会長就任直前)



中央：森 元首相
中央右：杉山義祥先生(10 回生)とのスナップ。
左端：JHA と JADA にお導きいただいた西山逸成元防大教授。

JASD 横浜大会 (単独プログラム) 特別記念講演感謝状授与後のスナップ写真
左：講師猪谷千春先生 (東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問・元 IOC 副会長・冬季五輪競技大会日本人初メダリスト・東京都名誉都民)

JASD 横浜大会 (単独プログラム) 特別記念講演
座長：杉山義祥先生 (10 回生)



関連記事 神歯大ワクチン接種 (第 2162・2163 号)

日本歯科新聞記事 (第 2160 号)



関連記事 日本歯科新聞記事 (第 2156 号)



JASD 横浜大会 (単独プログラム) への同窓生ご芳志
奥寺 元先生 (2 回生)



東京 2020 オリンピック競技大会参加証 (Thomas Bach IOC 会長・橋本聖子 東京 2020 大会組織委員会会長より)



日本歯科新聞記事 (第 2171 号)



日本歯科新聞記事 (第 2174 号)



日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト協議会総会にて大会長挨拶
左：議長 太田謙司会長 (元大阪府歯科医師会会長)、その後には杉山義祥新会長と議長交代。



JASD 横浜大会社員総会にて
左：安井利一 JASD 理事長 (明海大学学長・元明海大学社会健康科学講座教授)



JASD横浜大会 (単独プログラム) 閉会式にて大会長挨拶
メイン会場 (神奈川県歯科保健総合センター) にて

【参考資料】

- 1) 木本一成：日本スポーツ歯科医学会 事前インタビュー 学術大会の概要と東京五輪での活動. 日本歯科新聞, 2163 : 10, 2021.
- 2) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構ホームページ: <https://www.playtruejapan.org/code/provision/>
- 3) 独立行政法人日本スポーツ振興センターホームページ: <https://www.jpnsport.go.jp/corp/gyoumu/antidoping/tabid/772/Default.aspx>
- 4) 日本スポーツ歯科医学会特別記念講演から リアル開催の緊張感がもたらす効果. DENTAL VISION, 125 : 24-25, 2021.
- 5) 近藤尚知：国際スポーツ大会における歯科医療スタッフ

- の役割. 日本歯科医師会雑誌, 74 (8) : 52-56, 2021.
- 6) 第24回日本歯科医学会学術大会プログラム・事前抄録集. 日本歯科医師会雑誌, 74 (4) : 68・90, 2021.
- 7) 第32回日本スポーツ歯科医学会学術大会 (第24回日本歯科医学会学術大会併催プログラム). スポーツ歯学, 25 (2) : 29-63, 2022.
- 8) 木本一成：巻頭言 JASD 第32回横浜大会 (併催第24回 JADS学術大会) 開催に係る御礼. スポーツ歯学, 25 (2) : i-ii, 2022.
- 9) 広多 勤：スポーツ立国. 日本歯科医師会雑誌, 74 (8) : 27, 2021.
- 10) 日本スポーツ歯科医学会第32回学術大会 積極的な安全対策学ぶ. 日本歯科新聞, 2174 : 4, 2021.

日本法歯科医学会第16回学術大会

山田 良広 (18回生)



日本法歯科医学会第16回学術大会が本学主管で令和4年5月15日(日)、本学附属横浜研修センター7階大会議室において開催されました。日本法歯科医学会(理事長 神奈川県大学 山田良広)は2006年成立の学会で、歯科医師を主体に現在、548名の会員による学会です。学術大会は年一回持ち回りで開催され、本学は第3回に続き2回目の主管となります。

前回は東京の歯科医師会館での共同開催でしたが、今回はアクセスの利便性などから大学のある横須賀ではなく、横浜での開催となりました。

講演と特別講演・シンポジウムすべての発表は、対面とWebのハイブリッド形式で150名が参加、会場参加は定員の約半分の73名で3密を避け、感染対策を徹底して行い開催しました。



テーマの「ウィズコロナにおける歯科法医学の役割とは」は、コロナ禍の中でも身元不明死体は発生し、歯科医による身元特定作業も日常的に行われており、平時と違う状況の中では感染を防ぎ、また迅速な作業がこれまで以上に必要となります。

2021年の熱海市伊豆山土石流災害は2014年の広島市豪雨土砂災害、2019年京都アニメーション放火殺人事件は2011年歌舞伎町ビル火災、そして本年の知床観光船事故は1988年の横須賀沖の潜水艦なだしお遊漁船第一富士丸衝突事件と、過去の災害・事件・事故を彷彿させ、過去のいずれも、身元特定作業に歯科医師が重要な働きをしています。

今回、午前中の講演発表では、大学歯科法医学関連の教室及び大阪府歯科医師会警察歯科対策室から15題の発表、午後は神奈川県医療危機対策統括官の阿南英明先生による特別講演、シンポジウムでは本学病理学の榎木恵一先生他2名の最前線で活躍されている専門家にそれぞれの立場からコロナに立ち向かう話しをしていただきました。

開催にあたり、同窓会会員の多数のご参加と本部同窓会と神奈川県支部同窓会には後援もしていただき、大会の運営に大きな協力をしていただきました。

制約の多い中、大会が成功裏に終わり心より感謝いたします。



50年に一度じゃない！一生に一度の！ 一翼を授ける！エンド&マイクロ&デンチャーの勘所！ 50周年記念学術講演会

宇土 武典 (42 回生)

さる2022年1月16日(日) COVID-19の全国でオミクロン株による感染が拡がり、今や「第6波」の渦中でした。そしてトンガ諸島の海底火山の噴火による津波注意報が発令の中、Zoomによるフルリモートによる今回3人の演者先生のリレー形式でWebセミナーが行われました。

まずは、前畑 香先生による『総義歯に与えるべき床形態と咬合』にて印象深かったのは冒頭部分である。「COVID-19禍中だからこそスタンダードプリコーションを徹底すべき。義歯に付着したデンチャープラークに対してプロフェッショナルケアを行い次亜塩素酸系洗浄剤にて殺菌を！」まさにその通りである。いきなり流水で洗うことでの感染物が拡大に繋がりがねない。身が引き締まる思いの中講演が続いた。総義歯に与えるべき床形態はまさに理論と解剖であった。明日の臨床に直結する内容で理解を深めてくれました。

その後、50周年記念ということで、記念映像が放映された。とても懐かしい思い出に見入ってしまった。卒後11年であるが、まるで昨日のことかのように思い出が蘇ってきた。

午後は、長尾大輔先生による『マイクロスコープが私を変えた～真実に向き合う顕微鏡歯科医療～』では、いかに低侵襲で患者の負担を少なくするかをテーマに進んでいった。新しい術式MIPSやIAなどはまさにマイクロスコープを臨床に取り入れることで臨床の幅がかなり広がることにとっても感動した。しかしマイクロを覗くだけでは結果はついてこない。マイクロスコープを活用するには知識と技術が伴っていないと真実に向き合い臨床家として患者に寄り添うことができないと改めて感じた。

最後の講演は、三橋 晃先生による『きちんとやる・ちゃんとやるENDO』では、いかにシンプルに物事を捉えるかが大切であるかを感じた。歯内療法においていかに裏付けられたエビデンスでの診査診断とし術式で行うことは難症例を自ら作り出さないことがとても大切であると感じた。日々を行う感染除去を徹底することがいかに大切か痛感した。

今回、3人の演者先生臨床にかける熱い想いのリレー形式でおこなわれた。Webであったことを感じさせない熱量が画面から溢れ出ていた。エンド&マイクロ&デンチャーの知識と勘所の翼を授かり明日からの臨床に生かしたいと思います。COVID-19が収束した際には、対面にて今回以上の熱いディスカッションを多くの先生方と行われればと願います。

今回、開催に向け準備・運営を行なっていただきました学術委員の先生方に心より御礼申し上げます。

※2020年振替講演です

神奈川歯科大学同窓会
50周年記念学術講演会

—50年に一度じゃない！一生に一度の！—
翼を授ける！エンド&マイクロ&デンチャーの勘所！

【日時】 2022.1.16 (日) 講演会 10:00-16:00 (予定)
【場所】 神奈川歯科大学横浜研修センター

きちんとやる・ちゃんとやる ENDO 三橋 晃先生 (22 回生) 神奈川県



日常臨床で頻度の高い歯内療法。原則に見ついできると、ちょっと行えば長い間消えなかった膿孔、非常に大きな透過像、ずっと止まらない痛感、表面に目って存在する疼痛や違和感がある症例等、何度も何度も繰り返して治療しても治らない「難症例 ENDO」と括られていた症例に対し、それを改善し示唆させることが可能です。明日から根管内治療を成功に導くためにステップアップするポイントを臨床例を含めてお話しいたしたいと思います。

マイクロスコープが私を変えた 長尾大輔先生 (25 回生) 茨城県

—真実に向き合う顕微鏡歯科医療—



マイクロスコープは今そこそこ起きている真実を映す素晴らしいツールである。せめて導入したが、これを有効活用できない歯科医院も少なくないと思う。当院では Dr. のみならず DH もこれをフル活用し、処置内容を全て動画で記録し、「動く証拠」として情報共有している。本講演では日常臨床でマイクロスコープを駆使するポイントと、目の前の真実がいかに向き合っているかを、当院の“動く証拠”を交えながらお話したい。

総義歯に与えるべき床形態と咬合 前畑 香先生 (31 回生) 神奈川県



着しい顎堤吸収と床下結核の菲薄化や非圧縮性の低下に伴う顎堤条件で、総義歯製作を行うことも多いためにはなからうか。総義歯の維持安定を図るためには、咬合もまざることもながら、口腔周囲顔とそれに連動した粘着の動きに対し、与えるべき体位形態と研磨面形態が存在する。本講演では、明日から実践してほしい総義歯に与えるべき床形態と咬合のポイントを解説する。

対面式と WEB のハイブリッド講演会予定

【参加費】 神奈川歯科大学同窓会員もしくは本学卒後5年までの卒業生 講演会 無料
会員以外的一般参加 講演会 ¥8000
他大研修区・技工士・衛生士 講演会 ¥4000

第96回代議員会報告

令和3年度第1回予算決算特別委員会(在宅審議 令和3年5月19日～6月25日)

新型コロナウイルス感染症の影響は、令和3年度に入っても未だ収束の見通しが立たず、執行部より、令和3年11月に開催を延期しておりました、創立50周年記念式典・祝賀会を一旦中止とし、状況が落ち着いてから改めて開催を目指すことになったと報告がございました。

例年6月に前年度決算を審議する予算決算特別委員会を開催しておりますが、このような状況のため、昨年度同様「会議室には参集せず、事前に資料をお送りし、質問⇔回答をメール、FAXで繰り返し、在宅にて採決をとる方法にて開催する」とこといたしました。

令和3年度第1回予算決算特別委員会での在宅審議の結果、予算決算特別委員会8名全員の承認により、第96回代議員会パンフ(令和2年度決算)の代議員会上程を承認いたしました。

第96回代議員会パンフ(令和2年度決算)

(令和2年度決算パンフ質問受付 令和3年7月13日～7月28日)

令和3年度第1回予算決算特別委員会報告(案)とともに第96回代議員会パンフ(令和2年度決算)を代議員・予備代議員各位に送付し、質問を受付しました。

(令和2年度決算パンフ仮承認 令和3年8月5日～8月20日)

7月28日までの期間で受付した「代議員からの質問と回答」を加えた令和3年度第1回予算決算特別委員会報告を予算決算特別委員会委員にて在宅で審議、承認し第96回代議員会パンフ(令和2年度決算)を仮承認いたしました。尚、正式な承認は第96回代議員会の議場にて改めて執り行います。

令和3年度第2回予算決算特別委員会

(在宅審議 協議：令和3年11月26日～12月15日、審議：12月16日～12月20日)

令和3年度第2回予算決算特別委員会は、新型コロナウイルス感染症の感染者数が減少傾向にあるものの、会議室に参集しての開催、公共交通機関を利用しての長距離の移動に未だ不安も拭えないことから、第1回委員会と同様、会議室には参集せず、在宅にて審議し、2021年12月16日より20日の期間で採決を執る方法で執り行いました。

令和3年度第2回予算決算特別委員会 審議結果

1. 第96回代議員会パンフ(令和4年度予算案等)の代議員会上程を承認
2. 第96回代議員会の開催方法について

第96回代議員会は会場への参集はせず、審議は議決権行使書を以って在宅で行う。このことは、代議員全員に「代議員会在宅議事令和3年度第2号第96回代議員会の開催方法について」として令和3年度第2回予算決算特別委員会報告(要約)とともに代議員各位に送り在宅審議にて諮る。

3. 会長・監事選挙に関する件について
選挙を来年度の代議員会に持ち越し、役員任期を再度1年延長する
4. 改選後の役員任期について
改選後の役員任期は会則通り3年任期とする

【代議員会在宅議事】

第31回表彰者について(代議員会在宅議事令和3年度第1号 令和3年12月17日～12月28日)

表彰規則第4条に基づき、令和3年12月17日より12月28日までの期間で、代議員各位に在宅議事として審議を諮り、以下の通りの承認をいただきました。推薦者5名とも1/2以上の賛成をいただきましたので、第31回表彰者につきましては、承認といたします。

有功章（5名）	承認する	異議あり	未回答
中西 通（徳島県支部）9回生	66名／78名中	0名／78名中	12名／78名中
嶋本 道晴（高知県支部）10回生	66名／78名中	0名／78名中	12名／78名中
瀧 陽一郎（岡山県支部）5回生	66名／78名中	0名／78名中	12名／78名中
今兼 則夫（岡山県支部）12回生	66名／78名中	0名／78名中	12名／78名中
木本 一成（大学支部）13回生	66名／78名中	0名／78名中	12名／78名中

第96回代議員会開催方法について

（代議員会在宅議事令和3年度第2号 令和3年12月23日～12月27日）

標記の件について、予算決算特別委員会からは「第96回代議員会は会場への参集はせず、審議は議決権行使書を以って在宅で行う」との結論が示されました。この結果を受け、第96回代議員会の開催方法について、代議員会在宅議事令和3年度第2号にて、代議員各位に諮った結果、『予算決算特別委員会の結論通り、審議は在宅で行う』を選択した代議員が78名中58人と一番多く、第96回代議員会は在宅審議での開催とさせていただきます。

在宅での開催	会議室に参集での開催	その他	未回答
58名／78名中	4名／78名中	2名／78名中	14名／78名中

任期満了に伴う会長・監事選挙について「選挙を来年度の代議員会に持ち越し、役員任期を再度1年延長する」

（代議員会在宅議事令和3年度第3号 令和3年12月28日～令和4年1月7日）

先の代議員会在宅議事令和3年度第2号にて第96回代議員会は在宅での開催となりました。

そのため、第96回代議員会で執り行う予定でございました、任期満了に伴う会長・監事選挙につきまして、現行の会則、選挙管理委員会規定では、在宅にて選挙を執り行う事が不可能であるとの判断で、予算決算特別委員会では、『代議員会が在宅となった場合は、選挙を来年度の代議員会に持ち越し、役員任期を再度1年延長する』との結論が示されました。この結果を受け、「選挙を来年度の代議員会に持ち越し、現執行部の役員任期を再度1年延長する」ことについて、代議員各位に諮った結果、承認するが78名中71名と一番多く、標記議題について承認されました。

承認する	承認しない	未回答
71名／78名中	1名／78名中	6名／78名中

第96回代議員会報告・議事資料についての質問受付(令和4年1月26日～2月7日)

在宅で第96回代議員会議事を進めるにあたり、代議員各位より質問を受付しましたところ3名の代議員より質問を受けました。

第96回代議員会 報告・議事資料についてのご質問への回答、再質問受付(令和4年2月8日～2月18日)

3名の代議員からの質問への回答を代議員各位に送付し、回答をご覧になっての再質問を2月18日までの期間で受付ました。

第96回代議員会 議事第1号議案から第23号議案についての採決

（代議員会在宅議事令和3年度第4号 令和4年2月21日～2月25日）

標記の件について、令和4年2月18日までの期間で質問への回答を受けての再質問を受付しましたところ、再質問がなかったため、令和4年2月21日から2月25日の期間にて代議員会在宅議事令和3年度第4号にて採決を行いました。2月25日の締め切りまでに70名の代議員の先生より回答をいただき、ご回答いただきました先生よりすべての議案にご承認をいただきました。

この結果により、神奈川歯科大学同窓会会則第4章第2節第25条（議決）代議員会成立実数の1/2以上の賛成を得られましたので、第96回代議員会議事第1号議案から第23号議案につきましては、代議員会の決議があったとさせていただきます。

承認	否決	未回答
70名／78名中	0名／78名中	8名／78名中

令和2年度決算

- 第1号議案 令和2年度一般会計－1歳入・歳出決算
- 第2号議案 令和2年度一般会計－2（事業運営安定化資金）歳入・歳出決算
- 第3号議案 令和2年度事業基金会計－1歳入・歳出決算
- 第4号議案 令和2年度事業基金会計－2（創立50周年記念事業）歳入・歳出決算
- 第5号議案 令和2年度福祉共済部会計－1歳入・歳出決算
- 第6号議案 令和2年度福祉共済部会計－2（同窓会年金）歳入・歳出決算
- 第7号議案 令和2年度奨学金基金会計歳入・歳出決算
- 第8号議案 令和2年度職員退職金積立会計歳入・歳出決算
- 第9号議案 令和2年度前受金会計歳入・歳出決算
- 第10号議案 令和2年度神奈川歯科大学同窓会災害支援基金会計歳入・歳出決算
- 第11号議案 資産目録に関する件

令和4年度事業計画・予算(案)

- 第12号議案 令和4年度事業計画（案）
- 第13号議案 令和4年度一般会計－1歳入・歳出予算（案）
- 第14号議案 令和4年度一般会計－2（事業運営安定化資金）歳入・歳出予算（案）
- 第15号議案 令和4年度事業基金会計－1歳入・歳出予算（案）
- 第16号議案 令和4年度福祉共済部会計－1歳入・歳出予算（案）
- 第17号議案 令和4年度福祉共済部会計－2（同窓会年金）歳入・歳出予算（案）
- 第18号議案 令和4年度奨学金基金会計歳入・歳出予算（案）
- 第19号議案 令和4年度前受金会計歳入・歳出予算（案）
- 第20号議案 令和4年度神奈川歯科大学同窓会災害支援基金会計歳入・歳出予算（案）
- 第21号議案 特別会員の承認に関する件
- 第22号議案 退会者承認に関する件
- 第23号議案 会長・監事選挙に関する件

以上をもちまして、第96回代議員会報告とさせていただきます。

令和4年2月26日
 神奈川歯科大学同窓会
 代議員会 議長 飯塚 務
 同 副議長 外池 利夫
 会長 大館 満

令和2年度 一般会計歳入・歳出決算収支計算書

自：令和2年4月1日
至：令和3年3月31日
(単位：円)

【歳入の部】	令和2年度予算額		令和2年度決算額	
1. 会費	2,974 口	41,320,000	2,898 口	40,260,000
2. 入会金	42 口	1,260,000	49 口	1,470,000
3. 負担金収入（甲種）	61 口	244,000	55 口	220,000
4. 学術収入		300,000		16,000
5. 繰入金		300,000		0
6. 寄付金		1,000		300,000
7. 雑収入		475,000		465,076
8. 繰越金		11,000,000		6,531,132
1. 一般会計 - 1		11,000,000		6,531,132
歳入合計		54,900,000		49,262,208

【歳出の部】	令和2年度予算額		令和2年度決算額	
1. 事業運営費		38,828,000		20,546,786
内、予備費		1,596,000		
2. 事業運営安定化資金		3,400,000		3,400,000
3. 事業基金会計		5,412,000		5,264,000
甲種（2,706 口）			甲種（2,632 口）	
4. 福祉共済部会計		6,070,000		5,906,000
甲種（2,706 口）			甲種（2,632 口）	
乙種（329 口）			乙種（321 口）	
5. 奨学金基金会計		850,000		850,000
6. 職員退職金積立会計		340,000		340,000
歳出合計		54,900,000		36,306,786
次年度繰越金（収支差額）				12,955,422

監査報告書

私達は、会則第12条の定めに従い、神奈川県歯科大学同窓会の令和2年4月1日から令和3年3月31日までの令和2年度会計並びに会務執行の監査を行った。令和2年度会計に於ける歳入・歳出に関する決算書について、精密なる監査を実施せるところ、証拠書類その他についていささかも不備が認められなかったことを証明する。また、会務の執行については、会則に準拠し適切妥当に執行されたものであることを認める。

令和3年6月15日

監 事 岩 本 憲

監 事 細 谷 孝 明

神奈川県歯科大学同窓会

会長 大 舘 満 殿

令和4年度 一般会計歳入・歳出予算

自：令和4年4月1日
至：令和5年3月31日
(単位：円)

『歳入の部』	令和3年度予算額	令和4年度予算額
1. 会費	40,435,000	38,720,000
2. 入会金	1,440,000	1,710,000
3. 負担金収入	436,000	676,000
4. 学術収入	300,000	1,200,000
5. 繰入金 同窓会年金会計より	300,000	300,000
6. 寄付金	1,000	1,000
7. 雑収入	475,000	475,000
8. 繰越金	11,000,000	20,000,000
9. 一般会計 - 2 (事業運営安定化資金)より受入金	0	5,840,000
歳入合計	54,387,000	68,922,000

『歳出の部』	令和3年度予算額	令和4年度予算額
1. 事業運営費	38,605,000	50,866,000
内、予備費	(257,000)	(979,000)
2. 事業運営安定化資金拠出金	3,500,000	6,840,000
3. 事業基金会計拠出金	5,396,000	5,286,000
4. 福祉共済部会計拠出金	6,036,000	5,930,000
5. 奨学金基金会計拠出金	850,000	0
歳出合計	54,387,000	68,922,000

歳出の部 事業運営費内訳明細

自：令和4年4月1日
至：令和5年3月31日
(単位：円)

款	科 目		令和3年度 予算額	令和4年度 予算額	比較増減 (△は減)	増減率% (△は減)	構成率 %
	項	目					
1.	事務費		10,543,000	10,543,000	0	0.00%	20.73%
	1.	職員給与費	6,661,000	6,661,000	0	0.00%	
	2.	諸手当費	819,000	819,000	0	0.00%	
	3.	特別手当費	1,430,000	1,430,000	0	0.00%	
	4.	税理士報酬費	467,000	467,000	0	0.00%	
	5.	福利厚生費	535,000	535,000	0	0.00%	
	6.	雑費	631,000	631,000	0	0.00%	
2.	需要費		6,064,000	11,903,000	5,839,000	96.29%	23.40%
	1.	備品費	407,000	6,246,000	5,839,000	1,434.64%	
	2.	消耗品費	500,000	500,000	0	0.00%	
	3.	印刷費	1,366,000	1,366,000	0	0.00%	
	4.	通信費	2,150,000	2,150,000	0	0.00%	
	5.	交交通費	1,641,000	1,641,000	0	0.00%	
3.	事業費		10,733,000	16,633,000	5,900,000	54.97%	32.70%
	1.	学術費	5,545,000	11,045,000	5,500,000	99.19%	
	2.	組織費	1,950,000	2,350,000	400,000	20.51%	
	3.	広報費	1,600,000	1,600,000	0	0.00%	
	4.	福祉厚生費	1,160,000	1,160,000	0	0.00%	
	5.	情報処理費	478,000	478,000	0	0.00%	
4.	会議費		7,938,000	7,738,000	△ 200,000	△ 2.52%	15.21%
	1.	総会費	10,000	10,000	0	0.00%	
	2.	代議員会費	3,430,000	3,430,000	0	0.00%	
	3.	支部長会費	20,000	20,000	0	0.00%	
	4.	常務連絡会費	430,000	430,000	0	0.00%	
	5.	理事会費	2,728,000	2,728,000	0	0.00%	
	6.	監事会費	212,000	212,000	0	0.00%	
	7.	各種委員会費	1,108,000	908,000	△ 200,000	△ 18.05%	
5.	渉外費		2,160,000	2,160,000	0	0.00%	4.25%
6.	社会貢献費		200,000	200,000	0	0.00%	0.39%
7.	還付金		710,000	710,000	0	0.00%	1.40%
8.	予備費		257,000	979,000	722,000	280.93%	1.92%
	事業運営費歳出合計		38,605,000	50,866,000	12,261,000	31.76%	100.00%

令和4年1月から6月までの会務報告

月	日	曜	行 事	出席者・講師
令和4年	12	水	令和3年度第1回選挙管理委員会（在宅審議）	
	14	金	第8回情報処理部 Zoom 練習会	
	15	土	第4回常務連絡会（Web会議）	
1月	16	日	神奈川歯科大学同窓会50周年記念学術講演会（Web講演会） -Back to the basic-（2020年振替講演） 『50年に一度じゃない！一生に一度の！ -翼を授ける！エンド&マイクロ&デンチャーの勘所！』 「きちんとやる・ちゃんとやる ENDO」 「マイクロスコープが私を変えた ～真実に向き合う顕微鏡歯科医療～」 「総義歯に与えるべき床形態と咬合」	大館会長、来賓：櫻井学長 講師：三橋 晃先生（22回生） 講師：長尾大輔先生（25回生） 講師：前畑 香先生（31回生）
			第10回学術委員会（Web会議）	
	17	月	会報135号発行	
2月	12	土	第62回関東地区連合会総会（在宅審議）	
	25	金	第9回情報処理部 Zoom 練習会	
			第11回学術委員会（Web会議）	
26	土	第5回理事会（Web会議） 第96回代議員会（在宅審議）		
3月	11	金	第10回情報処理部 Zoom 練習会	
	12	土	第5回常務連絡会（Web会議）	
	13	日	神奈川歯科大学同窓会学術講演会（Web講演会）-Back to the basic- 咬合フォーラム -臨床の匠が次世代へ伝える極意- 「卒前には学ばなかった咬合の重要事項を知る」 「咬頭嵌合位の重要性 ～咬合・補綴治療から考察～」 「咬合理論 ～デジタルデンティストリー時代に備えて～」	大館会長 講師：小出 馨先生 講師：本多正明先生 講師：錦織 淳先生
			第12回学術委員会	
2	土	青森県支部総会・学術講演会	講師：波多野潤一先生（5回生）	
4月	9	土	令和4年度第1回広報委員会（Web会議）	
	15	金	令和4年度第1回情報処理部 Zoom 練習会	
	16	土	令和4年度第1回常務連絡会（Web会議）	
	19	火	令和4年度第1回学術委員会（Web会議）	
5月	13	金	第2回学術委員会（Web会議）	
			第2回広報委員会（Web会議）	
	20	金	令和4年度第2回情報処理部 Zoom 練習会	
	21	土	令和4年度第1回監事会	
			令和4年度第1回理事会（Web会議）	
22	日	神奈川歯科大学同窓会学術講演会 -Back to the basic- 「唾液の機能性の基礎と臨床応用のポイント」	講師：槻木恵一先生（24回生）	
29	日	千葉県支部総会・学術講演会	講師：三辺正人先生（12回生）	
6月	5	日	令和4年度第1回予算決算特別委員会（在宅審議）	
	10	金	第3回学術委員会（Web会議）	
			第3回広報委員会（Web会議）	
	12	日	神奈川歯科大学同窓会学術講演会 -Back to the basic- 「臨床の疑問に答える治療の病理 ～最新情報～」	講師：下野正基先生
	17	金	令和4年度第3回情報処理部 Zoom 練習会	
	18	土	第2回常務連絡会（Web会議）	
大分県支部学術講演会			小原正嗣先生(15回生)・荒金伸次先生(17回生)	
25	土	福島県支部総会・学術講演会	講師：池田知弘先生（14回生）	

令和3年度 第1回表彰選考委員会報告

(在宅審議)

日時：令和3年11月26日～12月7日の期間にて在宅審議

1. 報告

第30回表彰推薦者（令和2年度）

有功章 13回生 平良 恵信（沖縄県支部）

有功章 4回生 内藤 良二（東京都支部）

有功章 4回生 沼 智博（東京都支部）

2. 審議

第31回表彰推薦者（届出日付順）

有功章 9回生 中西 通（徳島県支部）

有功章 10回生 嶋本 道晴（高知県支部）

有功章 5回生 瀧 陽一郎（岡山県支部）

有功章 12回生 今兼 則夫（岡山県支部）

有功章 13回生 木本 一成（大学支部）

- ・表彰選考委員に推薦書、経歴書を送付し在宅にて審議（令和3年11月26日～12月7日）
- ・表彰選考委員会委員全員の承認を確認した
- ・表彰選考委員会の審議を報告書を以って報告し、理事会・代議員会の在宅審議を経て令和3年度第96回代議員会にて表彰とする
- ・第96回代議員会が在宅での審議となった場合は、昨年度同様、代議員会日付の記念品を表彰者にお送りすることを以って表彰とする

3. その他

特になし

明日の口腔医療に貢献する歯科用機器・サプライ・書籍の総合商社

今日もTRADスピリットで。

大正12年の創業以来、田中歯科器械店は、
伝統を守りながらも常に環境の変化に対応し、
革新し続けることで発展してまいりました。
そのスピリットを表現するシンボルがTRAD。

Traditionを意味するだけでなく、
Tanaka Realize Advanced Dentalという強い意志を表しています。
田中歯科器械店はこれからもTRADスピリットで、
国民の口腔医療に貢献してまいります。

TRAD
TANAKA REALIZE ADVANCED DENTAL

株式会社 田中歯科器械店

■ 本 社
〒102-8139 東京都千代田区富士見1-3-8
Tel 03-3230-2386(代) Fax 0120-418-550

■ 神奈川支店
〒238-0004 神奈川県横須賀市小川町26-3
Tel 046-826-1640(代) Fax 0120-182-999

■ 新潟支店
〒951-8151 新潟県新潟市中央区浜浦町1-41
Tel 025-267-1080(代) Fax 0120-438-020

■ 日本歯科大学営業部附属病院売店
〒102-0071 東京都千代田区富士見2-3-16
日本歯科大学附属病院内
Tel 03-3263-9525(代) Fax 03-3263-9553

■ 日本歯科大学営業部生命歯学部売店
〒102-0071 東京都千代田区富士見1-9-20
日本歯科大学生命歯学部に
Tel 03-3265-8977(代) Fax 03-3265-0570

■ 日本歯科大学新潟生命歯学部売店
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
日本歯科大学新潟生命歯学部に
Tel 025-265-0850(代) Fax 025-265-0859

■ 神奈川歯科大学営業所
〒238-0003 神奈川県横須賀市稲岡町82
神奈川歯科大学歯学部に
Tel 046-826-1441(代) Fax 046-826-1465

<http://www.tanakadental.co.jp>

神奈川県支部



〔箱根駅伝〕



支部長：
金子 守男 (18回生)



写真番号	名前	支部役職	役 職		
1	金子 守男	支部長	神奈川県歯科医師会常任理事	日本歯科医師会代議員	本部同窓会理事
2	杉山 義祥	副支部長	日本歯科医師会スポーツ歯科委員会委員長	日本歯科医師会代議員	神奈川県歯科医師会代議員
3	鴨井 雄三	副支部長			
4	松本 好史	副支部長	横須賀市歯科医師会会長	神奈川県歯科医師会代議員	
5	河野伸二郎	副支部長	本部同窓会代議員		
6	荒井 正博	副支部長	歯科保健総合センター・会館運営部常任幹事		
7	小島 章	副支部長			
8	木村 朗	副支部長			
9	西山 幹夫	副支部長	本部同窓会代議員		
10	金子 宣由	専務理事	神奈川県歯科医師信用組合理事	本部同窓会代議員・広報委員会	
11	加来めぐみ	常務理事	横浜市歯科医師会副会長	神奈川県歯科医師会代議員	本部同窓会代議員・広報委員会
12	高木 亮	常務理事			
13	本間 秀文	常務理事			
14	井上 宜生	常務理事	横須賀市歯科医師会専務理事		
15	小泉 政義	常務理事			
16	今井 俊一	常務理事			
17	阿保 達也	常務理事			
18	皆川 浩之	常務理事	本部同窓会代議員		
19	壇上 修	常務理事	鎌倉市歯科医師会副会長	神奈川県歯科医師連盟副理事長	
20	森 光弘	常務理事			
21	小林 弘樹	理事			
22	新井 宗高	理事	横浜市歯科医師連盟理事長		
23	長井 慶文	理事			
24	小川 秀人	理事	本部同窓会代議員		
25	大矢 亨	理事			

写真番号	名前	支部役職	役 職		
26	波磨 章	理事	本部同窓会代議員		
27	島田 優子	理事	神奈川県歯科医師会学校歯科委員会		
28	水木のぶこ	理事			
29	加藤 雅男	理事			
30	山田 格	理事	横浜市歯科医師会代議員	本部同窓会代議員	
31	森井 敏彦	理事			
32	原 めぐみ	理事	本部同窓会学術委員		
33	佐貫田尚亮	理事	横浜市歯科医師会代議員		
34	遠山 歳三	理事			
35	鈴木 則文	理事			
36	三橋 晃	理事	鎌倉市歯科医師会理事	本部同窓会学術委員会委員長	
37	檜山 雄彦	理事			
38	細谷 孝明	理事	本部同窓会監事		
39	簗島 利文	理事	平塚市歯科医師会会長		
40	宮川 俊郎	理事			
41	木村 茂之	理事	本部同窓会代議員		
42	遠藤 省吾	理事			
43	河野 正直	理事			
44	豊田 河清	理事			
45	綱島 裕之	理事			
46	小野 洋一	理事			
47	大室 博正	理事	神奈川県歯科医師会医療保険委員会副委員長	横浜市歯科医師会代議員	
48	岡本 晃彦	理事			
49	浅井 和秋	理事			
50	濱名 徹也	理事			
51	神部 哲哉	理事	神奈川県歯科医師会常任理事	日本歯科医師会災害対策委員会	
52	萩原 鉄也	理事	神奈川県歯科医師連盟顧問		
53	小池 軍平	理事	神奈川県歯科医師連盟副理事長		
54	岡田 修一	理事			
55	北村 隆	理事			
56	高垣 樹	監事			
57	両角 旦	監事			
58	酒井 康友	監事	神奈川県歯科医師会代議員	横浜市歯科医師会代議員	神歯信栄サービス 常務取締役
59	小田嶋千里	顧問	元支部長		
60	大舘 満	顧問	本部同窓会会長	神奈川県歯科医師会代議員	日本歯科医師会厚生委員会
61	外池 利夫	顧問	本部同窓会代議員会副議長	横浜市歯科医師連盟副会長	
62	村岡 宜明	参与	日本歯科医師連盟副会長	本部同窓会顧問	
63	土屋 松美	参与	神歯信栄サービス 取締役		
64	下里 誠	参与	神奈川県歯科医師国民健康保険組合理事	本部同窓会代議員	



シンプルな操作ステップで
さまざまな症例に対応

特殊な熱処理による
柔軟性と耐久性の向上

独自のS字型断面による
迅速な形成

NEW
VDW.ROTATE™
NiTi Root Canal File

The file is taking rotary
preparation to the next level



100年先にも輝く笑顔を
Bright smiles for another 100 years

VDW ROTATE NiTi ファイル

ROTATE NiTi ファイル

電動式歯科用ファイル
電動式歯科用螺旋状除去器

管理医療機器
医療機器認証番号 303AKB2X00110000

価格は2022年5月現在の標準医院価格(消費税抜き)です。

世界の歯科医療に貢献する

株式会社 松風 ● 本社: 〒605-0983 京都市東山区福福上高松町11 お客様サポート窓口(075)778-5482 受付時間8:30~12:00 12:45~17:00(土日祝除く) www.shofu.co.jp

● 支社: 東京(03)3832-4366 ● 営業所: 札幌(011)232-1114/仙台(022)713-9301/名古屋(052)709-7688/京都(075)757-6968/大阪(06)6330-4182/福岡(092)472-7595

歯科口腔病院のビジネスモデルと戦略

医療法人伊東会 伊東歯科口腔病院

病院長 伊東 隆三（4回生・熊本県支部）



はじめに

岩淵 通常務理事、小田博雄理事のご依頼で、神奈川歯科大学同窓会会報134号に拙文「歯科口腔病院へのあゆみ～夢の実現に向けて～」を執筆させていただきました。その後、先輩、後輩の先生方から、第2、第3の歯科病院づくりを目指したいなどいろいろなご希望、ご意見を拝聴し、まだまだ夢多い歯科病院創設に向けて是非チャレンジしてください、とエールをお送りしました。近い将来には必ずや実現するものと願っております。

続編のご依頼をいただきましたので、今後の歯科医療を取り巻く環境やわれわれが目指す歯科口腔病院としての医療の在り方について執筆したいと思います。

I. なぜ熊本に歯科病院ができたのか？

人口約72万人の政令都市である熊本市になぜ歯科病院ができたのでしょうか？多くの方々から質問を受けます。その理由として、1.歯科大学がなく、熊本大学病院には歯科口腔外科があるのみである、2.大病院には歯科が併設されていないか、あっても歯科口腔外科が主体であって、これからの高齢社会や、有病者に対する連携医療という点からは有用であるものの、3.歯科の総合的な専門的治療を受けられる施設がなく、歯科大学がある県とは医療の格差が生じている、との指摘があったことからである。

歯科病院とは一次医療から二次医療まで、すなわち



スタッフ集合写真（病院玄関にて スタッフ合計 218名）

外来診療から入院治療まで、また、これからの高齢者・有病者治療、障がい者治療を考える時に求められる医療の在り方と考えている。また、われわれの学生の頃から患者主体の一口腔単位の治療をしなければならないといわれているが、実際はどうでしょう。各科単位の治療が主であり、一つの治療が終わると次の診療科へ、と統一した診断のもとに総合的な、専門的な治療が行われているとは言い難い。私も長年、大学病院に勤務した経験から隣の科との壁の厚さを感じていた。熊本に帰ってから、理想的な治療を行おうと、この壁をぶち壊して真の一口腔単位の治療を行うように取り組んでいる。患者が各科を動くのではなく、患者の周りに各科の専門医が集まり専門的な治療計画を立て、専門的に患者本位の治療に取り組むことである。これが歯科大学病院とは違った伊東歯科口腔病院の大義であり大きな特徴である。

II. なぜ歯科病院としてうまく機能しているのか？

日本で初めての歯科病院として機能的にも、経営的にも上手いくのかとの危惧もあったが、1.矯正歯科と口腔外科のコラボレーション、特に顎変形症治療と育成・厚生医療の活発化による病床稼働率への寄与、2.病病、病診連携の強化、3.歯科の救急診療：熊本市や歯科医師会からの委嘱や当院の理念による24時間365日の診療、4.有病者・高齢者の安心・安全な歯科治療、5.障がい者（児）の安心・安全な歯科治療、6.矯正歯科と一般歯科のコラボレーション、7.矯正歯科と小児歯科のコラボレーション、8.矯正歯科とインプラント科、補綴科などとの連携治療を行うことにより、総合的治療が行え患者のQOLに貢献するとともに、経営的にも安定してきた。今後、これから増加するであろう高齢者や醜形障害に悩む患者に対して総合的に治療ができる、すなわち、心から口腔・身体までの歯科を主体とした統合的治療が求められる医療機関へと充実させていきたい。

III. 疾病構造の変化への今後の対応と戦略

歯を削って被せて、悪くなれば抜歯をして、というような従来型の形態回復治療から、形態回復後の予防、

重症化予防による機能回復を図ること、に変化してきた。現代の子どもたちは、むし歯は極端に減少したが軟食化に伴う不正咬合が増加しており、それに対する食育や予防法の確立が望まれる。われわれは保育園等で食事指導やカムカム運動を行っているが、顎の發育に対しては単独での解決は難しく教育、行政、家庭、歯科医師が一体となって指導、改革を行っていかないと解決は難しいと考えている。また、義歯に変わりインプラントを希望する患者が増加しているが、超高齢者になった時のインプラントへの対応も今後問題となるだろう。

高齢社会から超高齢社会を迎える中で歯科訪問診療の依頼が急増している。歯科訪問診療は歯科医療機関に通院が困難な要介護高齢者や障害を持つ人たちの自宅、病院、施設へ出向き、計画的に診療そのものを行うことが目的である。訪問歯科治療は、歯の治療や抜歯など外科的治療が主であり、本来清潔な環境でされるべきである。しかしながら現状ではベッドや布団の上で、しかも歯科診療室とは異なりさまざまな悪条件の中での診療を余儀なくされる。入れ歯の調整や簡単な口腔ケアなどのメンテナンスであれば現在の訪問診療で十分だと考えられる。しかし多くの歯が残っている高齢者が多い現在、種々なる疾患を持つ有病者に対し歯周治療や根面カリエス治療、局所麻酔を使用しでの抜髄などの治療を行わなければならない場合が多くみられ、ベッド上で完全な治療が行えるか訪問診療による治療の限界があることは明白である。また、数回にわたる訪問歯科診療で不完全な歯科治療を繰り返すよりも、入院下で集中的に安全に完全な治療をスピーディーに行い、その後のメンテナンスおよび再発・重症化予防を訪問診療で行うことが正しい医療の在り方といえるのではないかと考えている。入院させて集中的に治療を行うと治療費が高額になると誤解されているが、入院で治療した場合の治療期間と治療費を訪問診療の費用と比較すると、訪問診療の方が治療期間が長く、治療費も高くなるという結果が出ている。自分の口でしっかり食べられることが多くの病気を防ぎ、健康を取り戻すことを考えると、症例によっては入院して集中的に完全な治療をして、早くメンテナンスに持ち込むことが国家の医療経済的にもいい結果をもたらすのではないかと考えている。このようなことから当院訪問診療部では、今後高齢者の入院下での集中的治療を行うことによって完全な治療とメンテナンスを徹底的に行うことにより再発・重症化予防に力を注ぎ、機能を回復することで国民の健康寿命の延伸を図りたいと考えている。

IV. 人口減少、過疎化に伴う伊東歯科口腔病院の役割

熊本の医療圏では人口減少が著しい地域も多くみられるが、当院では幸いに影響は今のところ見られない。それよりも、過疎化による地域による医療格差の方が問題と考える。

社会的に過疎化が進む中で、歯科分野でも特殊な診療部門（矯正歯科、インプラント、障がい者歯科等）の医療過疎が問題となり、地域による医療格差が大きくなってきている。特に、山間部などでは、一般歯科治療は地域の先生方の献身的な貢献により熊本市と変わらない治療が受けられる。しかしながら特殊部門では、定期的に熊本市の診療施設に通院加療を受けることは経済的にも時間的にも難しく、また過疎地域では専門科だけで経営が成り立つことは難しい。地元の先生方から伊東歯科口腔病院の協力で初歩的な対応ができるように臨床教育、技術指導等を行ってほしいとの要望があったり、地方の先生方から歯科医師派遣の要望があったが実現までには至っていないのが実情である。今後はWebやZoomを利用した遠隔診療、研修会を通じて地域連携を強化し医療格差を少なくする、改善するためにも取り組まなければならない課題であると考えている。

おわりに

岩淵常務理事のご厚意で、会報134号では日本で初めての病院づくりの苦労話や成功体験談を報告し、今回はこれからの課題や将来の展望について私見を述べさせていただきました。同窓生の皆さんの参考になれば幸いです。

今後は、高齢・超高齢社会を迎え「歯科に特化した」から「歯科を主体とした」歯科病院づくりを行い、全ての患者様に満足いただける「心から口腔、身体までの統合的な医療」を展開し、「健康長寿」に貢献したいと考えている。



令和4年度入社式(25名):4月1日(大卒:15人・専門学校卒:10人)

支部長時代をふり返って

鴨井 康子（1回生・京都府支部）



私の支部長就任は、昭和62年（1987年）3月です。

当時の支部長の決め方は、卒業生が地元に戻った時点で、同窓会本部で自動的に決めていました。

私は昭和45年（1970年）3月に卒業し、母校の小児歯科学教室に3年間在籍し、4年目に京都大学医学部口腔外科学教室に入局し、5年後、京都市立病院歯科の勤務を経て昭和55年（1980年）9月に開業しました。

昭和60年（1985年）頃まで、京都では同窓会の集まりはまったくありませんでした。その時の支部長は3回生平岡徳雄先生でした。

その後何人かと連絡をとり、名簿を作り集まりました。私が平岡先生宅へお伺して、支部長を交替していただきました。

支部長に任命され昭和62年（1987年）の同窓会の代議員会から出席させていただきました。

発会式をしようという気運がたかまり、何度も何度も集まって京都の老舗旅亭「一力」に決めました。発会式の計画を立てましたが資金もない中、一番の難関である「一力」は一見さんお断りという旅亭でした。

私を中心に開業医ばかりで、「一力」を紹介してもらえるお茶屋さんを何軒も利用し、やっと実現しました。

発会式は、平成元年（1989年）9月30日に、念願かなって「一力」で開催しました。

京都府歯科医師会から、会長、副会長、部長。大学から学長、同窓会から会長、近畿地区の各支部長、京都府支部の同窓生全員18名、舞妓さんとで開催しま

した。

当日会費は、開業医15万円、勤務医・他は5万円でした。

平成30年（2018年）

8月5日の支部発会30周年記念は会費無料で、嵐山の「吉兆」で同窓会から大館 満会長の出席のもと開催しました。

支部発会が一番熱心で、30周年記念も楽しみにされていた、そして私の片腕となっていたいただいた15回生安藤慶治先生が、平成28年（2016年）にお亡くなりになりました。本当に残念です。

30周年記念には、元気に出席されていた6回生北原信博先生と10回生柴田 勤先生も令和2年（2020年）にお亡くなりになりました。

私より年の若い同窓生を失うことは、本当につらいです。

近北地区連合会は、正式には平成6年（1994年）からです。それより前から会合はしていましたが、今は年1回、地理的には真ん中の京都で開催しています。

私は、平成28年（2016年）9月に診療所を廃院し、令和3年（2021年）3月をもって、支部長を辞任しました。

私は、大学を卒業してからの歯科医としての人生の大半を、同窓会と共に歩んできました。

今は、いろいろすることが多すぎて時間が足りません。あっという間に1年が過ぎて行きます。

歯科医になって私は幸せな人生をおくらせてもらったと、同窓生と両親に感謝しています。



発会式 平成元年（1989）9月30日 於：一力



30周年記念 平成30年（2018）8月5日 於：嵐山吉兆

同窓会愛媛県支部長の任期を終えて

浅井 謙次 (6回生・愛媛県支部)

今、振り返りますと、ただ我武者羅に駆け抜けてきた日々が思い起こされます。

平成12年4月より令和3年3月まで、思いもよらぬほどの長きにわたり、会の運営に御協力くださいました諸先輩方、共に汗を流した同僚や後輩の皆様に、無事に任期を終えることが出来たことを感謝するばかりです。

また、平成24年より中国、四国地区連合会の代表として、同窓会副会長を3年間務めさせていただきました。その後、大学の役員も2期4年務めさせていただきましたが、振り返りますと、これらの会を通して多く

の同窓の先生方とお目に掛かる機会は、楽しく大変有意義な期間であったと思います。これら学び舎を訪れる時間は、青春を謳歌した頃を想起させ、時々の活力にもなったようです。

なお、老婆心ながら最近では、同窓会入会率の低下が懸念されておりますが、よりよい活動の活性化を願い、更なるご繁栄をお祈り申し上げます。

入学時に正門から仰いだ満開の桜の事など思い出しますと、歩んできた道程の事々を懐かしく思うこの頃です。同窓の皆様の一層のご活躍を念じております。

《 クラス会助成について・令和4年度 》

- ・10周年単位のクラス会、卒後5周年のクラス会に助成金を支給します。
- ・令和4年度は4回生、14回生、24回生、34回生、44回生と卒後5周年に該当する49回生が対象となります。(いずれも前後1年の会期も可)
- ・助成金額は、該当するクラス会1件 10万円で用途は自由です。
- ・助成クラス会の該当要件があります。詳しくは事務局までお問い合わせください。
- ・同窓会に提出する書類とは別に、同窓会会報に掲載する原稿を別途ご提出ください。(集合写真1枚等添付)



歯科医師・従業員のみなさんへ。

あなたにもプラスも。

掛金はぜんぶ所得控除になるから、税金がおトクに!



わたしも入っています。優香

一生涯もらえる年金を上乗せできます!



人生100年時代の“プラス年金”

プラス年金 歯科医師国民年金基金

60歳以上65歳未満の方や海外居住されている方で、国民年金に任意加入されている方も国民年金基金に加入できます。※非居住者が支払った掛金は、所得控除対象外です。

資料請求・ご相談・お問い合わせは
お気軽に今すぐこちらへ!

☎ 0120-155-950

〒102-0076
東京都千代田区五番町12-11
泉館五番町ビル2F
<https://www.npfunddent.or.jp>



お知らせ

令和4年度 新入生

新入会者

青木真一朗	神津 悠	飛田 百萌
阿久津比佐乃	小林 葵	人見隆二郎
浅野加寿希	狭川 彩	平野 李紗
阿部 紗知	島 聡太郎	福島 侑
阿部真之佑	清水 健	福山 華蓮
荒木 真綾	鍾 昀修	藤波啓太郎
有賀 理湖	白砂 柚夏	古川 円香
池邊 慧悟	杉山 元祥	古谷妃露凧
石原 萌愛	鈴木 智裕	部谷 拓海
上垣 龍	瀬尾 広桐	細沼 孝博
植木 佑香	竹山りおん	細見 威月
江田 英史	田尻 温士	枅岡 美波
永廣 知也	館花明朱香	松下 武生
王 淑婷	田畑 蓮	松信佑里恵
太田 悠生	趙 廷澤	丸山 雄大
大山遥太郎	趙 倫秀	丸山 健斗
岡本 悠莉	陳 舒婷	三上 雅空
小川 太一	土屋 孔希	宮田 爽太
小川 優真	寺西 葵	村尾 直輝
奥村 佐駒	濤崎 祥吾	村田 郁香
小野 隆良	中條 匡貴	望月奈津子
小野崎優志	中田 秀紀	望月 里菜
川田 樹	成ヶ澤明宏	森田恵莉惟
川部 大起	西尾 彩花	守永 実優
木島 章	二ノ宮慶龍	山本麻由子
木田 瑛大	二瓶勇太郎	余 潔柯
金 建圭	納見 祐希	楊 騎光
久保 空楓	萩原 英之	李 冠學
吳 彦威	濱口 竜熙	劉 承翰
小池比華里	濱田俊太郎	劉 明鑫
侯 祉屹	原 明生	渡邊 絢音

以上93名

戸倉 弘雅	(34回生・甲)	大阪府支部
石渡 研士	(35回生・甲)	沖縄県支部
佐久本 圭	(35回生・甲)	沖縄県支部

再入会者

雨宮 孝昌	(41回生・甲)	山梨県支部
-------	----------	-------

訃 報

『正会員』

原田 安信	(福岡県支部 7回生)	2021.12.26	ご逝去
小林 伸光	(長野県支部10回生)	2021.12.30	ご逝去
錦織 健	(奈良県支部 6回生)	2022.01.09	ご逝去
蒲 実	(東京都支部10回生)	2022.01.28	ご逝去
仲谷 昭男	(大阪府支部 4回生)	2022.03.28	ご逝去
森 光正	(岡山県支部 9回生)	2022.05.24	ご逝去
織島 秀機	(山口県支部 1回生)	2022.06.18	ご逝去
山本 繁	(静岡県支部10回生)	2022.06.24	ご逝去

《編集後記》

前広報担当常務理事 岩淵 通先生の辞任に伴い突然の指名に右往左往している川端啓義(12回生)と申します。
第136号神奈川歯科大学同窓会会報を発刊するにあたり原稿依頼を快くお受けいただきご寄稿下さいました諸先生、引き続き編集委員を承諾頂いた諸先生に心よりお礼申し上げます。と共に神奈川歯科大学同窓会会報136号を発刊し終えてほしいと胸をなでおろしております。

編集委員：加来めぐみ(9回生) 金子宣由(19回生) 濱野奈穂(30回生) 市田佳子(33回生) /
広報担当常務理事 川端啓義(12回生) / アドバイザー 高橋 朗(12回生)

神奈川歯科大学同窓会会報 136号

発行：神奈川歯科大学同窓会
〒238-8580 横須賀市稲岡町82
TEL: 046-825-0524 FAX: 046-823-0510
URL: <https://inaoka82.com/> e-mail: ob-jimu@kdu.ac.jp

発行人：大館 満

発行日：2022年7月19日

印刷：一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22
TEL: 03-3952-5651



医科・歯科特化

新規開院 医療法人化 事業承継

税務・会計
TAX ACCOUNTING

SOLUTION
SERVICE

社労士業務
SOCIAL &
LABOR INSURANCE

医業経営
コンサルティング
MEDICAL MANAGEMENT



みなとみらい税理士法人
高田会計事務所

所長・税理士 高田一毅

〒220-0011 横浜市西区高島2-3-25 みなとみらいTAビル

TEL:045-285-8880 FAX:045-285-8881

E-mail: ta@ac-systems.co.jp